

拡大物性委員会 議事・発現録 (案)

日時：2022年9月10日(土) 17:30～19:30

場所：オンライン (Zoom)

参加者：72名

議事(敬称略) 進行：事務局長・青木勇二

1. 開会挨拶(委員長・堀田貴嗣)

- ・都立大に事務局が移り、1年が経過した。

2. 事務局報告

2-1. 会員情報・会計報告(事務局会計・松田達磨)

- ・現時点での名簿の更新状況の報告があった。
- ・現時点で、219グループ、登録会員数：1067名、物性委員：247名。
- ・今年度の会費は請求していないが、今後物性委員を通して会費請求の連絡をする予定。

2-2. 幹事会報告(委員長・堀田貴嗣)

- ・2022年8月12日(16～18時)に幹事会を開催した。審議事項および報告・検討事項に関する報告があった。

3. 施設等委員の推薦について(委員長・堀田貴嗣)

- ・幹事による投票の結果が以下の通り報告された。今後、委員長・堀田から各候補者の先生にご了解をいただき、推薦手続きに入る。

3-1. 東京大学物性研究所 人事選考協議会委員

- ・佐々木孝彦先生(東北大)、楠瀬博明先生(明治大)を推薦することが報告され、承認された。
- ・任期は2023年4月より2年間。

3-2. 東京大学物性研究所 共同利用施設専門委員会委員

- ・物性物理学分野に関して、石田憲二先生(京大)、鬼丸孝博先生(広島大)、遠山貴巳先生(東京理科大)、香取浩子先生(東京農工大)、関根ちひろ先生(室蘭工大)、堀田知佐先生

(東大), 木村剛先生(東大)を推薦することが報告され, 承認された.

・物性化学分野に関して, 山本文子先生(芝浦工大), 細越裕子先生(大阪公立大)を推薦することが報告され, 承認された.

・どちらの分野も任期は2023年4月より2年間.

3-3. Asia Pacific Center for Theoretical Physics (APCTP) 日本委員会委員

・柳瀬陽一先生(京大)を推薦することが報告され, 承認された.

・任期は2023年4月より2年間.

3-4. 京都大学基礎物理学研究所運営協議会委員

・主として統計力学を研究する候補者として, (正) 田崎晴明先生(学習院大), (補) 押川正毅先生(東大)を推薦することが報告され, 承認された.

・主たる研究分野を限定しない候補者として, (正) 小形正男先生(東大), (正) 遠山貴巳先生(東京理科大), (正) 播磨尚朝先生(神戸大), (補) 川上則雄先生(京大), (補) 求幸年先生(東大)を推薦することが報告され, 承認された.

・どちらも任期は2023年4月より2年間.

3-5. 京都大学基礎物理学研究所共同利用運営委員

・主として統計力学を研究する候補者として, (正) 高安美佐子先生(東工大), (補) 初貝安弘先生(筑波大)を推薦することが報告され, 承認された.

主たる研究分野を限定しない候補者として, (正) 宮下精二先生(JPSJ編集部), (正) 御領潤先生(弘前大), (正) 楠瀬博明先生(明治大), (補) 速水賢先生(北大), (補) 求幸年先生(東大)を推薦することが報告され, 承認された.

・どちらも任期は2023年4月より2年間.

4. 話題

4-1. 「エビデンスに基づく研究評価分析についての検討会」開催報告(豊田理研 客員フェロー 瀧川仁先生)

・検討会が2022年6月26日(日)13:00-17:20にオンライン(ZOOM)にて開催された.

・腰原伸也先生(東工大), 宮本岩男先生(経産省), 七丈直弘先生(一橋大), 林隆之先生(政策研究大学院大学), 鈴木博之先生(東大URA)の講演内容に関する概要が説明された.

・プログラムおよびスライド資料は物性グループのホームページに掲載されている.

4-2. 日本学術会議の動向について(東工大 教授 腰原伸也先生)

- ・日本学術会議第 185 回総会（2022 年 8 月 10 日）の報告があった。
- ・研究インテグリティに関する報告が行われたこととその趣旨が説明された。
- ・研究者の「雇止め」に関する提言が行われ始めたこと、「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期戦略」についての公募が開始されたことが報告された。
- ・学術会議の在り方について、研究力強化や若手のスタートアップ支援等についての検討状況についての報告があった。
- ・日本学術会議のホームページに資料が掲載されている。

4 - 3. ヘリウム危機について（名工大 教授 大原繁男先生）

- ・ヘリウム危機の現状が説明された。
- ・現状として、ヘリウム入手がかなり困難な状況である。危機感の共有として、様々な場面での危機対応の例が紹介された。また、ヘリウム不足の要因が紹介された。
- ・今後の対応として、国・世界レベルでの対応が必要である。ヘリウム使用量の削減が必要。
- ・資料は物性グループのホームページに掲載されている。

5. 議題

5 - 1. 物性研究将来計画小委員会からの報告（東京理科大 教授 遠山貴巳先生）

- ・「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募について小委員会設立（2022 年 3 月 19 日）の経緯と役割が説明された。常設の委員会として物性研究の将来像について検討・提言を行っていく。メンバーは現時点で 11 名。任期は物性委員会幹事・事務局と同じ。2022 年 6 月に第一回委員会を ZOOM 開催。
- ・当面は「学術の中長期研究戦略」の公募に関する準備を行う。未来の学術振興構想（資料中のイメージ図）における「グランドビジョン」、学術の中長期戦略（学術振興の「ビジョン」＋「学術研究構想」）、「研究計画（長期間にわたった多くの研究者が参加する研究）」、「施設計画（すでに存在する大型施設の整備・運用）」に関する説明があった。日本学術会議への提案締め切りは 12 月 16 日。
- ・2022 年 10 月 8 日に物性委員会主催で「物性研究の中長期研究戦略について」を ZOOM 開催することが提案され、物性委員会主催とすることが承認された。
- ・2022 年 10 月 29 日に日本学術会議物理学委員会主催のシンポジウムが開催されること紹介され、物性委員会との共催とすることが提案され、承認された。
- ・資料は物性グループのホームページに掲載されている。

【コメント】（委員長・堀田貴嗣）未来の学術振興構想の「グランドビジョン」と「ビジョン」の関係について。今回は小さい図中の○（学術の中長期戦略）を提案するというので、それを学術会議でまとめてグランドビジョンにしていくと思うが、「ビジョン」の段階で領

域をまたがるような、どういうグランドビジョンがあり得るかを、想定すべきか？
→ (遠山先生) 小さいように見える○ (学術の中長期戦略) であっても分野横断のような非常に広いビジョン考えるべきと認識している。

6. 施設報告

○東北大金研 教授 野尻浩之先生

・物性グループホームページに掲載の資料での報告のみとする。

○東大物性研 所長／教授 森初果先生

- ・ZOOM チャットにて資料 (PDF) が共有された。
- ・人事異動, 人事公募の説明があった。特任研究員 (若手) を 9 月 30 日まで募集中。
- ・物性研共同利用・共同研究に関して紹介があり, 強磁場 (ワンストップの共同利用, 測定可能な物理量の拡充), 中性子 (JRR-3 運転再開, 採択状況, 学生の課題申請), スパコン・ソフトウェア (MateriApps, 文科省への提言) に関する紹介があった。
- ・共同利用申請システムの導入と柏ゲストハウスの修繕終了・リスタートについての報告があった。学生長期受け入れ状況の説明があった。
- ・資料は物性グループのホームページに掲載されている。

○J-PARC MLF/CROSS ディビジョン長 大友季哉先生・センター長／教授 柴山充弘先生

- ・運転・利用状況の報告があり, ビーム出力が 830 kW に達していることが紹介された。
- ・コロナウイルスと電気代高騰の影響で運転期間を短縮したことが報告された (低い採択率の原因)。
- ・成果は mlf info から検索可能。また, 資料にてプレスリリース内容を紹介している。
- ・資料は物性グループのホームページに掲載されている。

○OKEK 物構研 教授 雨宮健太先生

- ・KEK-PIP (Project Implementation Plan) が策定されたことが報告された。(今年度から 6 年間にに関するプラン) 答申におけるプロジェクト (新予算の優先度) は Category I・II にわかれて示されており, [I] R&D for New Light Source Facility と [II-4] Transmission Muon Microscope は物構研関係のプロジェクト。
- ・放射光の将来計画が紹介された。新放射光源では蓄積リングと単パルスが同時利用できる Hybrid Ring を計画している。フォトンファクトリー計画推進委員会が設置されたことが報告された。PF 研究会 (2022 年 11 月 6 日オンライン, 2023 年 1 月 5-6 日ハイブリッド) が開催される。

- ・運転計画についての紹介があり、電気料金高騰の影響（第三期への影響の可能性）に関する説明もされた。第二期のビームタイムの有効活用をお願いしたい。
- ・資料は物性グループのホームページに掲載されている。

OSPring-8 JASRI 分光推進室長 為則雄祐先生

- ・報告の詳細は SPring-8 シンポジウム 2022（2022 年 9 月 25-26 日）で行う予定。
- ・2022 年 4 月以降の運転状況が報告され、コロナの影響もほぼ収まり順調に運転していることが説明された。電気代の高騰とヘリウム危機の影響についても説明があった。
- ・共用 BL の再編状況（4 つの BL が再編完了、6 つの BL が整備進行中、BL39XU と BL46XU は今後シャットダウンの計画があるので注意）が説明された（利用者情報の冊子に詳細の説明がある）。
- ・利用制度の改正について説明があり、年 6 回募集対象 BL の拡大と大学院生提案課題の長期型を設置した。

○京大基研 教授 佐藤昌利先生

- ・人事異動および外国人客員教授の計画についての報告があった。
- ・計算機の利用についての説明があった。国内危難に所属する理論物理学研究者等に無料提供している。電気代の高騰を受け、7 ラックのうち 1 ラックを試験停止中。
- ・コロナ禍対応（新ビジター制度の紹介や研究会募集について）の説明があった。まだ定員制限はあるが、オンライン・ハイブリッド研究会の申請は可。国内モレキュール型研究会を募集している。
- ・重力量子情報研究センター（CGPQI）の設置に関する説明があった。重力量子情報研究センターは物性関連も対象。
- ・今後の研究会の紹介があった。
- ・今後の運営関連（運営体制、CGPQI、人事関連）の説明があった。

7. 会議報告

OLT29 豊田理研フェロー・京都大学連携拠点教授 前野悦輝先生

- ・2 年間延期されていた LT29 が 2022 年 8 月下旬に開催されたことが報告された（大規模ハイブリッド国際会議）。
- ・参加者数は 1145 名（34 か国）、海外から 147 名が現地参加。展示も 90 名（海外から 24 名）、プロシーディングスは 223 報が投稿された。3 件のサテライト会議の紹介があった。
- ・ハイブリッド開催のノウハウについての説明があった。
- ・資料は物性グループのホームページに掲載されている。

OSTATPHYS 28 お茶大理 教授 出口哲生先生

・2023年8月に延期すること（ハイブリッドを予定）、準備状況の報告があった。予定されるサテライト会議は7件。各賞の受賞者についての説明があった。

OSCES シリーズ 神戸大理 教授 播磨尚朝先生

・SCES 関連の報告と今後の予定があった。2022年はアムステルダムで開催された。SCES2023は韓国の仁川で開催予定、SCES2024はイタリアのボローニャで開催予定。
・資料は物性グループのホームページに掲載されている。

OAAPPS-DCMP 東北大金研 教授 野尻浩之先生

・2021年に設置された Division of Condensed Matter Physics in AAPPS の紹介があった。総会は2年おきに行うことになっている。
・資料は物性グループのホームページに掲載されている。